

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293100028		
法人名	社会福祉法人 天祐会		
事業所名	グループホーム天羽苑		
所在地	千葉県富津市不入斗224-1		
自己評価作成日	令和2年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.tenyuukai.jp/amahaen_main.html">http://www.tenyuukai.jp/amahaen_main.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	〒275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和2年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

都会にはないのびのびとした自然の環境の中で、利用者様は毎日時間に追われることなくのんびりと暮らしています。当苑ではその自然を皆様感じていただきながらの散歩は毎日の日課にしております。毎日レクリエーションで体を動かしたり、歌を歌ったりした後は、職員と一緒にお茶を飲む時間も日課にしています。利用者様第一に考えた支援をさせていただき、安心して暮らしていただけるようなサービスを心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ご利用者様第一主義」の理念と「やさしさ」「思いやり」「あたたかさ」のある支援を心掛けることを方針に掲げた当事業所は、前面にこうこうと広がる農耕地の向こうに真っ白な富士山が見え、裏山には野生の猿が生息し庭にミカンを取りに来るのどかで静かな環境に恵まれた、家庭的な雰囲気の中でのんびりと暮らせるワンユニットの施設である。室内は天井が高くリビングも広く運動やゲームもできるが、以前デイサービスで利用していた部屋はそれ以上に広く、小学生が来てボール遊びなど利用者と一緒に楽しむ時間を過ごす等いろいろな用途に使用できるようになっている。地区で行っている「いきいき体操」を当ホームで行うようお願いするなど、地域との交流は盛んである。2ヶ月毎に行う運営推進会議は市役所、警察、社協や地域の方々の参加があり、それぞれからの情報提供により、有意義な会議となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

## 1 自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議時に全員で唱和しており、常に意識を持って業務に取り組んでいる。	理念の「ご利用者様第一主義」を掲げ、「やさしさ」「思いやり」「あたたかさ」のある支援を心掛けることを方針として、常に利用者に対し、言葉使いを丁寧にするとか耳の遠い方には大声を出さず近寄ってしゃべるなど、年配の方を敬うような支援に心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	社会福祉協議会や地区の懇談会等に出席し、奉仕作業や祭礼にも参加している。近隣の小学校や幼稚園とも交流を深めている。	自治会の回覧版を利用者が持って行ったり、地区の草刈りや神社の掃除を手伝ったりしている。小学生の1～2年生は見学で、3～4年生は班を作って風船、トランプ等で遊んでくれて、5～6年生は職場体験としてお手伝いをしてくれたり利用者とお話をしてくれる。回覧で、以前デイサービスで使用していた所をお茶のみ場等のフリースペースとして使用して頂くように地域に宣伝している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の懇談会や、運営会議等で認知症の方の支援方法や説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、毎回利用者様の状況や行事報告を行っている。市の職員や地区役員等からの意見や要望を参考にし、サービス向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回市、警察、社協、区長、薬剤師、家族等が参加して会議を行っている。利用者等の報告や市からは石窯カフェオアシスや公民館で認知症に関することや看取りについての講演会等の情報や社協からは天神山小のお別れ会や地区社協の研修旅行の参加案内などが伝えられたりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護者が2名入居されており、担当職員と生活状況の報告を情報交換している。運営会議にも市の職員の方が参加され、意見や助言を頂いている。	年に数回社会福祉課が来て生保の利用者と話し合い、次に向けての相談をしている。ケアマネが区分変更の申請や家族の代わりに書類の提出で毎月の様に市へ行き空室相談なども行っている。空室については、地域包括以外にも民生委員や弁当配りを行っている見守り隊の方々が紹介してくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修に参加している。職員会議時に、身体拘束に関する勉強会や、検討会を行っている。	身体拘束に関する県の研修に参加し、毎月行う職員会議の内2ヶ月に1回は身体拘束会議を行いその場でフィードバック研修を行っている。普段無意識の内に言っているスピーチロックに対して事例を挙げてひとり一人振り返り話し合っている。また、拘束とはどんなものが当てはまるか等についても話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加している。職員会議時に、虐待防止に関する勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に取り入れて、研修に参加した職員が講師となり、学ぶ機会を持つ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、口頭で説明をし、書面でも承諾を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来苑した時には、日頃の様子を報告しご家族との話す機会を設けている。運営会議にもご家族代表で、参加して頂き、意見や要望を聞いている。	家族とは毎月支払いに来た時など意見交換をしている。写真や今後の予定、コメントを付した「GH通信」を各家庭へ送付しており大変喜ばれている。写真については「今後、家の中にも飾っておきたいので、撮っておいて下さい」との要望も有った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の業務の中で、意見を聞いている。問題点や改善策を会議で話し合う。	職員会議の中での意見を大切にしている。例えば、自立支援の一環として、利用者の中で出来る方と出来ない方がいるので、出来ることを手伝ってしまうと何でもやってもらえると勘違いしてしまったり、人によってやってくれる職員とやってくれない職員になってしまう恐れが出てくるので、利用者のためにやれることはやってもらう方がよい。言葉一つで考えが変わるので注意する。などの意見が出る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境の整備に関しては、毎日巡回し、確認し、夜勤の巡回時の様子で把握している。職員には、面談時や日常の会話の中で意見や要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修や個々に参加したい研修を聞き、最低年に1回以上の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会、講演会等に参加し、他の施設職員と交流の場を多く持つよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学や体験入居をして頂き、本人との面談を行う中で不安な事や要望をお聞きし、コミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や体験入居後に必ずご家族に状況を報告している。面会時にも近況報告をして要望や意見をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況や精神状態を把握し、ご家族の意向を聞き取りより良い支援が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除機掛け、食器拭き、ゴミだし等を分担して手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員とで一緒に利用者様を支えるように連絡を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には面会や外出、外泊などの機会を作って頂けるようお願いしている。	地区で行っている「いきいき体操」に参加しているが、これからは当苑でやってもらうようお願いをしている。初詣の帰りに保田小学校の廃校後の道の駅に寄った時、昔の給食の献立(コッペパン、カレー、牛乳)写真を見て「懐かしいねー」と皆が言ったので、後日全員で食べに行った。また、鹿野山の神野寺や富津公園へ行くと皆が「懐かしー」と思い出すことが多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テレビ前に寛げる様にソファを置いている事もあり利用者様が会話し楽しまれている。時々席替えをし、利用者同士のコミュニケーションを図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くの施設に入所となる時は面会に行くように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議を行い、ご本人の意向や希望、要望をお聞き確認している。	入所時面談では、家族としては本人の希望を十分に取り入れて、健康で何事も無く暮らして欲しいという気持ちを伝えられる。本人は初期のころは帰宅願望もあり暫くは落ち着かない様子であるが2~3カ月からは日常のケアのなかで少しずつ聞き出して行くが、家族の意向と本人の気持ちは違うことが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や日常会話の中から今までの生活内容を把握し、混乱の無い様に支援し継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体面、精神面の状況を日々観察し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議にてその都度、職員から様子や意見を聞き確認し、問題点は、解決できる様話し合う。	ケアプランは3ヶ月に1回モニタリング表でチェックされ、ケアマネージャが作成するが、家族も参加する担当者会議を開き、検討された上で決定される。家族の意向は初期面談で確認できても、利用者本人は生活歴が様々あり、掴みにくいところが多いが、職員からの意見も参考にしながら確定していく。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の個別のケース記録に、日中や夜間の様子を記録している。申し送り後も再度変わった事や気づいた事を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリングを通して変化や状況に合わせてご本人の希望に合う様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加して交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導の契約を結ぶ事で主治医及び薬剤師との相談や健康管理がスムーズにできている。	利用者はかかりつけ医、提携医と個人契約を結び、月1回の訪問診療を受けることができるようになっている。事業所内では服薬管理する職員が決まっており、ドクターとは1日1人の診察ペースなので、都度情報交換も行っている。家族には緊急の場合はすぐに連絡はするが、特に何もなければ1カ月間にあったことをまとめて報告する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の身体、精神的状況を把握し変化があれば早急に対応し看護師への相談にてご家族様に連絡するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は様子を見に行き、ソーシャルワーカーとも話し合い今後の生活を決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明はしている。急激な変化や医療的問題が見られる時は、話し合いの場を設け、今後の方向性を考え共有して取り組んでいる。	現在、看取りの受け入れは出来ない状況にある。重度化、急変の場合は医療連携により入院対応をして頂くことで家族には了解が取れている。介護度4になると法人の直営施設である特養に登録することも出来、転居することも可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成して、職員の目につく場所に掲示している。又緊急時の研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、自信、災害対策マニュアルが作成してある。又、自主訓練も行っている。	春には夜間想定、夏は自主訓練、秋冬には消防訓練と年3回の訓練を行っている。ホームの立地からすると、あるとすれば水害か土砂災害が考えられるが、昨年は大型台風の直撃で、1週間の停電があった。ガスを使用している為、食事等は問題はなかったが、非常用の備品として自家発電機、電池等の準備の必要性を感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい声掛けに気を配っている。勉強会などで利用者にはわかりやすい声掛け、又は受容的な姿勢で接している。	利用者のプライバシー確保については一人ひとりの尊厳を守るための基本であり、法人にもそのルールがある為、順守に向けて日常業務の中で確認されている。トイレ介助や入浴介助等は、同性介助を基本に行っているが利用者と職員の間で、慣れてくるとその意識も失われがちとなる為、逐次意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューの希望をお聞き取り入れたり、外出の場所等をお聞きしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的なサービスが提供出来るように、ご本人主体のペースを大切にし自由に過ごせる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活習慣は変化しない様ご本人の希望に沿えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の形態に合わせて提供している。テーブル、食器拭き、配膳や下膳も個々に行っている。	食事のメニューは、同じ法人グループの大佐和苑(ケアハウス)の栄養士が作成しており、食材の調達や調理は職員が行っているが、利用者には食べたいものを聞いて出来るだけ希望に沿ったメニューを用意するようにしている。週2日(水・木)はパン食を採用したり、利用者は配膳下膳のお手伝いをしたり、食を通じた様々な取り組みを行うように心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床時、おやつ時に希望のある方は好きなコーヒーや紅茶などお出ししている。個々に配達される牛乳やヨーグルトも希望で摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の朝、夕と行い見守り確認を行っている。又義歯を使用している方は夜間洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを作成して確認し声掛けやトイレ誘導を行い、自立または現状維持できる様に支援している。	利用者の半数は自立しており、残りの半数は日中は尿とりパッドの使用で声掛けによるトイレ誘導を行っている。日中の声掛けは排泄記録ももちろんだが、本人の歩き方にも注意している。夜間については同様に、3時間毎の声掛けでトイレに誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックも個々に行い、排便の状態を把握し、主治医や薬剤師に相談している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限りご本人の希望を可能な限りお聞きし、「順番も希望を」聞きながら行っている。	週2回、午前中の中の入浴をお勧めしている。利用者によってこれまでの生活習慣から、早めに入りたい人、最後にゆっくりと入りたい人、自分自身で手洗いたい人など様々である為、一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースや生活パターンにあわせて休息出来るような環境づくりを心掛けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に個人ファイルを作成して薬手帳を管理している。又薬剤師からもアドバイスを受けている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に居室の清掃や共有スペースの掃除を手伝って頂いている。月1回のドライブを楽しみにされ、買い物も希望でされている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員不足の為、個別対応の外出支援が出来ていない状況だが、御家族やボランティアの方の協力をお願いしている。	買い物、お食事、見学、お花見等々ではあるが、月に1回は、全員で外出できる機会を設けている。家族来訪時には、ご希望によって、一緒にお食事に行ったり、スイーツを食べに行ったりして楽しんで頂いている。日常的な近所のお散歩などは、お天気の良い日は出来るだけ行うようにはしているが、今現在では人手の問題で十分に出来ないのが現状である。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしているお小遣いの中から、おやつ時に販売機にて好きな飲料や移動販売のパンを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人がご家族に連絡したい時は、事務所に来て電話をかける支援をしている。ハガキや手紙が届いた時は、ご本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時、ボランティア来苑時等の際に撮った写真をホール内に掲示している。クリスマスやお正月等の飾りつけを行って、季節感を取り入れている。	広いリビングには様々な行事の写真等が飾られ、話題には事欠かない状況である。飾りつけについては、職員と利用者が共同作業で行うが、一緒に作り上げる楽しさを、皆さんで分かち合えることが出来るように努めている。年間を通じて季節感が味わえるのもこの飾りつけのお陰であり、そういった中で生活出来る居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで過ごす事が多い為、テレビを囲んで利用者同士がのんびりと過ごし、会話もはずむ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた物やご家族が持ってきた物を自由に置いたり、使用している。	居室は同一フロアでリビングを囲むように配置されており、ちょっとおしゃれなシェアハウスのような感じである。部屋の中は、利用者の好みのもを持ち込まれている様であるが、世間での核家族化の進展が影響している為か、家族も居室への持ち込みものに関してはあまり干渉されなくなっている傾向にある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事。出来ない事を見極め個々の能力に合わせて意欲、目標に繋げる様に心がけている。		